

いなづま

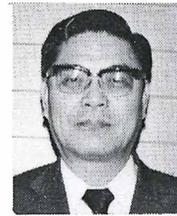
題字 小寺寛一

発行所	函館地方電気工事協同組合
編集	総務部
住所	函館市日乃出町7番22号
印刷所	畠山印刷



発行五十号記念

「発行50号記念」 によせて



理事長
大倉伸夫

『いなづま』が昭和四十三年に創刊されてから、本号を以って五十号の記念号の編集を見る事はご同慶の至りであり、これまでの間色々苦勞されました編集者の皆さんに対し心から敬意を表し、お礼を申し上げます。いなづまが生れてから今日までの間、高度成長の時代から現在の不況そのものの時代に至るまで色々な事があり、既刊号を読み返してみてもつかしく感無量なものがあります。

現在、我々業界は大変な年を迎えております。暗い長いトンネルの先行きに、明るさを見出すよりその暗いトンネルの中に明りを灯すことを考えなければならぬ昨今です。

私達組合は上部機関である全日電工連や、道工業組合とも連携をとり乍ら、ありったけの智恵を傾けて業界防衛の策を考えて行かなければなりません。

そのためには、組織の力で出来る共同受注、共同保守管理、或は協業化等色々な方法があるうとは思いますが、何を行うにしても、業者個々が自らの事業のみの利益を優先した営業態度を改める事が先決であり、その様な気持の中から、話し合いの輪が広がって行くのではないのでしょうか。

いづれにしても、限られた仕事の中で、我々電気屋は喰って行かなければならない事実を考えて、よい智恵があればどしどしご提案下さい。

今後『いなづま』が、そのような意見発表の機関誌として、益々充実されてみなさんに利用愛読される事を祈念致します。

新年のご挨拶



北海道電力(株)函館支店

支店長 秦 正 美

あけましておめでとうございます。

皆様には、おだやかな初春をご家族お揃いで迎えられましたこと、心からお慶び申し上げます。

昨年は旧年からのオイルショックの影響、そして冷夏冷害と相俟って、企業経営や社会生活のうえで、非常に厳しい一年でありました。

そんな激動の中にも、皆様の絶大なるご協力を頂きまして、知内火発一号機および二号機の着工をみるに至り、また苫東厚真一号機、伊達二号機、瀬戸瀬水力発電所の運転が開始され、電力の安定供給の責を果たせることが出来ました。またエネルギー多様化の一貫として計画いたしております森地熱発電所につきましても暮の十二月二十六日電調審を通過することが出来雪どけを待つて本格着工いたす計画であります。しかしながら一方では、資本費や燃料費の高騰、さらに出水率の低下等もあって、当社の経営環境は極めて厳しく大きな圧迫を強いられた年でもありました。これは同じく電気事業に携わる皆様にとりましても、いろいろなかたちで、近年になく、厳しいものでなかったかと思われまます。

本年の見通しといたしましても、決して好転するとは思われず、むしろ昨年以上のものを覚悟しなければならぬと思えます。

しかしこの様な状況に於かれてこそ、皆様の不断の努力が底力となり、積極的な対策も生み出せるのではないかと信じております。

厳しい年の年頭に臨んで、皆様とご家族の方々のご健康とご発展を心よりお祈り申し上げますと共に、電気事業の円滑な推進を通して、地域社会の発展のため皆様のご協力を尚一層よろしくお願い申しあげ、ごあいさついたします。

役員会だより

第七回役員会

五五・一一・二〇

一、慶弔報告

(一) ㈱神電気従業員死去

二、貸付報告

五社 一九五万円

三、各支部・部会報告並提案事項

東支部 一般転貸資金の返済について、一括返済でなく分轄返済の方法は駄目か

赤川支部 北電の業務連絡会の時に、外灯の管理者

名を表示して欲しいという意見が出され
たが、需要家から価格の面でクレームが
ついた

中渡島支部 北電の當配近代化について、理事者と

して強硬な申し入れをして欲しい

四、組合脱退申込者に対する賦課金の取扱について

五、組合加入申込について

六、渡島支庁による業法立入検査

七、事務局職員冬期手当について

第八回役員会

五五・一一・二三

一、慶弔報告

(一) ㈱川村電気工業所代表者死去

二、貸付報告

(一) 一般転貸 二社 一〇〇万円
(二) 年末特別融資
一〇〇万円 二二社 一、二〇〇万円
二〇〇万円 一九社 三、八〇〇万円

計 三二社 五、〇〇〇万円

三、各支部・部会報告並提案事項

西支部 忘年会の開催

東支部 政治連盟会費について全員了承した

八雲支部 新規加入申込みについて審議した

中支部 忘年会の開催

経理部会 年末特別融資の報告

四、組合新年宴会について

恒例の新年宴会の日時・場所・会費等について審議の結果、次の通り決定した

日時 昭和56年1月28日 午後4時

場所 ホテル函館ロイヤル

会費 二、〇〇〇円

五、組合脱退申込みについて

六、組合加入申込みについて

七、支部対抗電気工事技能競技大会について

八、年末年始の組合業務について

御用仕舞 十二月二十七日(土)

御用始 一月 五日(月)

九、『配線設計の実務と積算入門』の幹旋

十、その他

組合行事

12月4日 理事長・副理事長会議

6日 経理部会議

11日 渡島・檜山支庁打合会議に坂本事務局長出席 (於江差町)

13日 全日電工連災害互助会に大倉理事長出席

(於東京都)
16日 中小企業振興委員会に坂本事務局長出席
(於商工会議所)

全日 西支部会議兼忘年会 (於陶陶亭)

18日 道工業組合役員会・委員会に大倉理事長・吉田副理事長出席 (於札幌市)

19日 厚生年金基金役員会に大倉理事長出席
(於札幌市)

全日 渡島地方技能訓練協会役員会に坂本事務局長出席 (於市職業訓練センター)

23日 第八回役員会

25日 総務・経理部会合同会議

27日 組合業務御用仕舞



恒例

新年宴会「行なわる

去る一月二八日、ホテル函館ロイヤルに於いて、恒例の昭和五六年新年宴会が賑やかに挙行された。

午後二時から同ホテルの別室に於いて役員会が行なわれたのに続き、午後四時からは、衆田函館労働基準監督署長の労働災害防止に関する特別講話が、実例を交えて一時間余に亘ってあり、約一〇〇名の組合員が聴講した。

午後五時三十分、官庁関係来賓四名、北電来賓一五

名、電材店ほか関係来賓一名、組合員二二一名に事務局を含め合計一五九名の多数が一堂に会し、大倉理事長の挨拶に次いで、来賓各位ならびに親組合員の紹介ののち、北電函館支店長の乾盃で祝宴に入った。余興に入ってから、これも恒例になった支部対抗のど自慢が、佐藤電気工事協社長佐藤征次氏の流暢な司会により、九支部、北電から各二名の美声の持ち主によって競われた。



カラオケ流行の故か、いづれも甲・乙つけ難い出来栄で、来賓にお願いした審査結果もその殆んどが一点差と云った風で、結局昨年引き続き江差支部に凱歌があがった。

かくして午後八時十分、細川副理事長の音頭による乾盃で盛會裡に終宴した。

俳句

平井行衛

雪で顔拭く電工猿に合う

海明けの画布にはしまる放浪期

ビル残照華麗な夢を貪欲に

蝶となり午後オフィスはレモンテイ

一村の百の癖寄る盆踊り

実らねば頁の余白曝されて

鶴折って積雲の肝癩みだし

組合員の異動変更

組織・住所の変更

(新)

(旧)

一、(旧)山田電気工業

山田電気工業

一、(旧)東光ラジオ電気商会

一、函館市柏木町一―三―一

函館市万代町一―二―二

一、羽衣電気

一、函館市亀田港町四五―三

函館市亀田港町 四一〇―一八三

一、大鎌電気機

一、函館市美原三丁目

函館市赤川通町

一、道南電気工業所

一、函館市中道町二丁目

函館市中道町

二六―二二

二六―二二

記念特集

座談会

若い力

明日の組合を考える

組合機関誌『いなづま』の発刊50号を記念して、若手・二世の座談会を企画した。

年令的に35才以下の二世・若手の経営者の中より、約15名程に出席を依頼し、左記の七名の入達の出席をえて、去る一月二十日、組合和室に於いて開催した。大倉理事長ほか編集部からは、吉田、工藤、駒井、佐々木の各委員の外、坂本事務局長も同席し、約二時間余に且つて意見の交換を行なった。

出席者名（敬称略 いろは順）

池田 耕造 （㈲池田電気工事）

石高 孝見 （石高電気）

伊東 研一 （㈲ユタカ電気工業所）

大鎌 哲雄 （大鎌電気㈱）

小寺 隆 （日本電気保全㈱）

汐谷 石敏 （㈲汐谷電気工業）

本庄 寛治 （㈲本庄電気工業所）

編集部

本日は年始の種々の行事の延長の中、皆様ご多忙の中をご出席頂きまして有難うございます。

昨年来の不況風の中をどうやら年を超え、『不透明』とも『不確実』とも云われる81年を迎えた訳ですが今年も又大変な年のように思われます。しかし、幾ら大

変でも、工事が少なくなっても、吾々は自分の商売を守り、組合員一致団結して難関に当り、落後者を出さぬ

様努力せねばならぬと覚悟を新たにしている訳ですがこの度たま／＼『いなづま発刊50号記念』として若い皆さんの座談会を催し、この不況風を吹き飛ばす様な前向きな『大きな夢』もしくは『放談』で宜しい訳でこれからの業界の在り方―各自の事業の進め方、ひいては工事組合の進む方向など危懼のないご意見を交換して頂きたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

A―本年は昨年同様建築工事特に住宅の仕事が少ないと思う。

いつも論議的になる工事価格の値崩れが懸念される。建築業そのものの競争も激化が予想され、電気工事も含めて収益の低下が心配だ。

B―住宅係関は、好むと好まざるにかかわらず建築業者の下請になり勝ちである。

不良建築業者（低価格おしつけの）の情報をお互いに交換しては如何であろうか？

C―建築付帯工事に限らず民間一般の工事に関し、吾々はそれ／＼、新旧の得意先をもっている訳だが、お互いそのツナガリを尊重し合い、目に余る割り込みは自制しなければならぬと思う。

D―建設業界の下請という形から脱出しなければ、いつまでも吾々は楽になれない。

例えば共同受注と云う方法はどんなものか。

E―建具協組では、市役所の一部工事を受注して組合員に配分している。現在では全国で函館しかやって

いないそうである。

発注者の理解も評価するが、こゝまでやった建具協組はえらいと思う。

半面組合員に対する配分については、厳しい細部に亘る基準を作って、これに依って公平に配分すると聞いている。

一見不可能な事の様でも、やる気になればやれると云う証左であると思う。

F―理事長―組合で一括受注して組合員に共同施工又は配分をするとう形は理想的であるが、内容の多様な電気工事に現行では如何ともし難い。

工事量の増加がみ込めない展望からすれば、業者の統廃合が望ましい姿だと思いが、視点を代え、考え方を新たに於て次の若い世代に期待したい。

F―たとえ建築工事の下請けであっても、打合せや施



工の段階で、直接需要家との緊りを密にして、工事内容を増やす等いわゆる技術営業の努力をするべきである。

又平素から組合等で需要家に対する直接発注のPR

を行なっておくのがよいと思う。
 G—業界内の過当競争が問題にされるが、組合への加入が安易なのではないか。組合員が増えれば競争が一層激化すると思うが？

理事長—現在加入規程の見直しを検討中であるが、電気工事業法や協同組合法との関連もあり、一方的な加入制限は出来ない。

老令化・継承者がいない等の理由で事実上営業していない業者に対する脱退勧奨も一定条件をつける線で考慮中である。

これらを考え併せると、実質的にはそんなに組合員は増えないと思う。加入規制をすれば、アウトサ



イダーが増えて又別の問題の発生も予想される。

編集部

支部会議に出ている人もいると思うが、支部に対する意見は？

D—支部会議の出席率が悪い。40〜50%位だ。いつも、欠席する人は決まっている様だ。組合に加入して北電の計器・引込工事が出来ればよいと思っ



ているのではないか。

組合員意識が足りない様に思う。

理事長—現在は総代制になっているので、総代でない組合員は支部会議に出席しないと組合の動勢が判り難い。

業界の情報等いろいろ参考になると思うので、是非出席して種々討議してもらいたい。

編集部

とり組み方

北電の『営配近代化』に伴って、組合の**とり組み方**と、各自の事業の合理化等の考えは？

F—市内はともかく、函館近郊の業者は大分不便になる様で懸念している。

組合で工事書類の一括取りまとめや、通達事項等の徹底をはかって欲しい。

B—吾々のオヤジ達は昔から北電との繋がりがあるので(合理化)時代の流れとあきらめて達観している様だが、若い吾々は北電の合理化が業者(特に小規模)の不合理化になる矛盾を感じている。

組合も、北電との対話をもっと密にしてもらいたい。

A—吾々は需要家の代行として窓口に行くのであるから、その辺を北電側も理解して、スムーズな事務処理をお願いしたい。

コンピューター処理となつて、人為的な要素が減っていることは理解できるが、窓口では一般の需要家の人々と比較して、応対に差がある様な気がする。

編集部

本年から、組合の新しい事業として、『共同保守管理業務』が発足することになったが、何か意見は。

E—大変良い事業だと思う。先行き工事が減少する中で、需要開拓と受けとめている。

しかし、保安協会との競合はどうなるのか。理事長—一応、低圧50KW以下の需要家を対象とするので、保安協会との競合はないと思う。

この事業は、既に本州各地で行なわれており、ヤル気になれば相当の成果を上げている組合もある。

高年令になつて、体が利かなくても出来る業務なので、ぜひ強力に推進したいと考えている。

C—いままでは工事をやり放しで、特定の得意先以外は工事終了で縁が切れていたのが、この事業で需要家との繋がりが続いて大変結構だ。

又会社のPRにもなり、工事需要の開拓にも貢献すると思う。

編集部

次の時代の経営者として何か抱負が観点をひとつ。

D—私は、『電工』と云う言葉が嫌いだ。社内では絶

対使わない。

昔外線工のことを「電工土方」と云われたことがあった。

われ／＼は国家試験を経、各種の技能試験を経た立派な電気技術者なのである。自分だけでなく、社内でも誇りをもって自信をもつ様教育をしている。少くとも業界の誇りにもつながると考えている。

E―近頃よくオヤジの信用と、息子である自分との信用というものについて考えることがある。自分なりに頑張っている積りだが、得意先へ行ってもオヤジに比較されている様な気がするし、事実まだオヤジにかなわないと思う点が多々ある。見習って努力を続けたいと思っている。



F―吾々の経営をどうすると云う事は、勿論最大の急務であるが、組合内で若い力を結集して何かを考え何かを実行すると云った前向きな課題も必要と思う。理事長―全日電工連でも、昨年来青年部結成の動きが



あり、道内単協の中では既に活動しているところもある。当組合でも以前から一部には青年部を作れとの声があった。

G―最終的には吾々は共存共栄で、企業規模や考え方の差を超越して、組合員として仲良くやっていかねばならない。

各組合員の中には、若い人もいるし、古い人も居る。

世代交替の人達もいて、いろいろな思想、信条、観方があると思う。

どうか以後も組合の絶大な指導と支援を期待する。

編集部

長時間に亘り、貴重なご意見を有難うございました。この様な会合は、一度のみならず回を重ねる事によってより有意義な話合いになると思っています。

又この様な企画をもちたいと考えております。

随筆

石垣

平沼智子

甲斐の武田信玄と云えば誰でもすぐ思い出すのがかの有名な「風林火山」である。五十六年前にもなるであらうか。

へ人は石垣 人は城
妻子に恙があらざるや

と云う流行歌がはやった。「風林火山」がテーマの「武田節」である。

日本商工会議所会頭の永野重雄氏は、会議所の機関誌「石垣」に発刊の挨拶として

「石垣、それは色、かたちの違った大小様々な石でガッチリと組み合はされ、数百年の風雲に耐えてビクともいたしません。私はかねてからわが国産業を石垣にたとえて、大企業や中小零細企業が相互に補充し合ってこそ、日本経済は力強い発展を続ける事が出来るし、また、あらゆる業種、業態の大企業から中小零細企業までを、会員として構成されている商工会議所は、地域経済の伸長発展を担いつつ日本経済の巨大な域を守り続けている石垣である。」とのべております。

八十年の新年を迎えたと思つたら、アット云う間に一年がすぎ、予想以上の不透明な日本経済であった。吾が業界も倒産・内整理・組合脱退・廃業、ひいては脱退勧告等目まぐるしい一年であった。「困った、困った」と腕をこまぬいて居ても、誰も救ってくれないし、誰も援助の手をのべてはくれなかった。

世に「無常」と云う言葉がある。「無常」とは「ものあはれ、かなしみ、はかなさ」等の意味ではない。

倒産した人は「無常な」と云うかも知れないが、本当の意味は「世の移り変り・時の流れ」と云う事である。八十年から八十一年への移り変りであり、長島が辞めて王のポストが変わったと云う事である。

この五十号が八十一年の新年号になるに当って、私は表題の石垣を強調したい。永野会頭の言ではないが、企業が大小にかかはらず、ガツチリ手を組みこの業界を守らなくてはならないと思う。一人のダンピングや落伍者は石垣にすき間を作る結果となる。城の石垣が時の流れの如く常に変っていたら、堅固を誇る事は出来ない。人は「石垣と云えども崩れる」と云うかも知れない。だが、崩れる石垣などは最初からものの役に立って居なかったのだと思う。伊勢湾台風の時、昭和の石垣は崩れたが、江戸時代のものがピクともしなかつたのがいい証拠であろう。

吾々業界は真剣に「石垣」の心を持って、蟻の這出るすき間もなくスクラムを組まなければ、この八十一年は

妻子に羞がある
苦しい一年となるであろう。

年頭に当って永野会頭の言葉を身にしみて考えている私である。

五十号発刊に想う

編集員 工藤 義一

月日の過ぎ去るのは、本当に早いものである。昭和四十三年一月、当組合の機関誌『いなづま』を発刊以来、今回五十号を編集する事が出来て、感無量なものがあります。

当時、理事長は小寺寛一氏、北電支店長は船山友夫氏、編集長は荒井孝一氏でありました。

創刊号の題字は、小寺寛一氏が達筆をふるい、謡曲『熊坂』を転載し、水色の紙面であったことが思い出されます。

以来五十号まで時代の移り代りが手に取るように、その時々問題がわかるのが、なんとも言えない記録の味と云えましょう。

昨年からは業界の厳しさは、益々深刻になりつつあり年明けと共に、外線工事業者は工事量不足のため、四十名程の従業員が本州に行っております。

そこで、外線工事会社設立の頃の『いなづま』を読んで見ました。昭和四十三年、北電の近代化『合理化』に伴ない、

重ねることが出来たのは、ひとえに組合員の皆様のご協力の賜と厚く御礼を申し上げます。

私達編集員一同、冒頭の様に初心にかえり、組合員の為のより有意義な機関誌『いなづま』を創り上げる覚悟を新たにしている次第です。今後ともご協力とご叱声をお願いいたします。

吉田 義一
工藤 義一
平沼 智子
駒井 亀太郎
佐々木 三男



・不透明・不確実の80年代と云われる現在から振り返ってみると、創刊の時代は業界にとって『よき時代』であった様に思われます。爾来13年間、国の内外の諸情勢は激動を重ね、我が組合も私達もこの波をもろにかぶって揺れ動いて来ました。
*激動の時代の証として『いなづま』が50回も回を

外線業者の統合の話が出されてから二年の間、色々と問題を煮詰めながら、難産の末に業界近代化の第一陣として、外線業者の統合会社が『函館電気工事株式会社』として、昭和四十五年四月に発足をみたのであります。

以来、協力業者と役員諸氏らの努力が報われて、年毎に発展し昨年十周年記念式典が行なわれました。

しかし、時の移りと共に、北電の合理化は更に全道二社統合を打出してきて、函館電気工事株式会社も、いずれかの二社の中に統合される事になってまいりました。

社内には山積する諸問題があり、むづかしい論議が繰り返えされております。

一方、内線業者にも色々な問題が起こりつつあります。

工事受注量は低下し、単価は誠にお粗末な値段で受注しなければならぬ状況にあり、我々仲間の内から廃業脱退の申込みが数件出ております。

昨秋より、北電の近代化による営配問題が実施段階にきて、郡部電業所の統廃合、営業所の一本化等で、四月からは書類の提出、計器受払等で我々の不便が心配されております。

いづれにせよ、我々は零細業者で力不足であり、これを解消するためには、ぜひ共協同受注協業化でなければ、我々の生きる道はないのではないだろうか。世代は変り、昭和二十年代生まれの若者が、業界をリードする日も近いと思われる。

私達編集員は、微力ながら、発刊当初より業界の発展・近代化を紙面を通じて呼びかけてきた積りですが組合員意識の欠如か又は北電に対する窓口業務の利用のためのみの組合加入か、いづれにしても協同組合の名に反して、組合員の結束が確立されなかつた事を残念に思うのです。

今後、『いなづま』は百号、二百号と続くものと思いますが、時移り人変っても強力な組合を作る仲間の機関誌となることを願うものであります。

祝 いなづま発刊50号

あかるい明日を技術でひびく

東芝電材株式会社

函館営業所

040 函館市大縄町二十二番十四号
電話 函館 四一―二二四一

吟味する

松下電工株式会社

函館営業所

函館市昭和町三九六の一
電話 函館 四二―五八二一

工事材料・電化製品

丸晃電気株式会社

函館市西桔梗町五八九―四九
電話 四九―一三三―一三

全道随一の照明設備センター
電設機器資材の総合電機卸

大興電機株式会社

本社 函館市西桔梗町五七一〇
電話 代四九―六二一―一
照明 函館市千才町十九の三
電話 代二―一七―四八
営業所 札幌・八雲・福島



三菱電材特約店
あらゆる電設資材卸

隆東電機株式会社

函館市西桔梗町五八九―一〇八
電話 四九―六二二―六

電設資材・機電総合卸

進和電機株式会社

040 函館市松川町三四―一三
電話 四二―一六二―三一

明日をひらく電設資材の総合卸商社

株式会社 工三ヤ商会

函館営業所

函館市富岡町二丁目四一―一七
電話 四三―三三〇―一(代表)
本社・札幌 支社・東京 営業所・釧路
出張所・苫小牧

電気工事材料
音響通信機器 総合商社

石垣電材株式会社

函館営業所

本社 函館市中央区北六条西二丁目一番地
支店 苫小牧市新中野町二丁目二番二号
電話 〇(一四四)三四―三三七番機
函館営業所 040 函館市 中島町六番一五号
電話 〇(二三八)五五―四二二番機